

(参考様式2)

令和元年5月11日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年5月9日～令和元年5月11日
出張先	明治大学アカデミーホール 東京都虹の下水道館 東京都水の科学館
出張内容	2019年度日本自治創造学会研究大会 新時代到来！～地方はどう生き残るか～ 参加 東京都虹の下水道管・東京都水の科学館 視察
応対者	穂坂邦夫（財）日本自治創造学会理事長 谷畠英吾湖南市長 目黒哲也南魚沼市議会議員 岡本啓二（一）こゆ地域づくり推進機構執行理事 他
概要所感	初日は、穂坂邦夫（財）日本自治創造学会理事長より「自立へのシナリオを語る」、片山善博早稲田大学教授より「眞の地方創生と地方自治」と題してそれぞれ講演をいただいた後、竹井智宏氏より「地域ビジネスを成功させる知恵と実践」、谷畠英吾湖南市長より「外国人対策」、齋藤潤一氏より「地方はチャンス～1粒1,000円のライチ」と題した事例発表をお聞かせいただき、その後、齋藤健前農林水産大臣より「ゆでガエルにならないために」と題した講演をいただいた。講演終了後には、改革発表会があり、1グループ、3個人より「余暇時間の消費実態と豊かな社会の創造」、「市民自らが作る姿勢」等の発表があった。2日目は、中井徳太郎環境省総合環境政策統括官より「SDG'sと地域循環共生圏」、村上洋子OECD東京センター所長より「日本の課題と可能性」、藤井陽子スポーツ庁審議官より「スポーツが持つ力と地域活性化」、堤未果氏より「日本が売られる～自治体は最後の砦～」と題した講演をいただいたのち、「新時代到来！～地方はどう生き残るか～」とのテーマでのディスカッションを拝聴させていた

概 所 要 感

だいた。

講演では、これから的地方自治体の在り方、地方創生のために地域の持つ問題の本質を感じ手対策を立てる大切さや、議会の決定権の重要さを再確認させられた。加えて、SDG's、日本社会が解決すべき労働環境の改善、高齢者対策、地域活性化へのスポーツの効果なども大変参考となった。

事例発表においては、ベンチャー企業の育成、外国人労働者による多文化共生社会の構築問題、何が地域を発展させていくかなど大変勉強できた。

3日目には、東京都下水道局所管の「東京都虹の下水道管」、東京都水道局所管の「東京都水の科学館」を視察させていただき、下水道管の改修工事の工法、処理場から発生する副産物の処分、浄水施設の説明を受けた。

短い期間において、多くのテーマについての見識を深めることができたと思う。本市における問題の解決、福祉の向上への一助とし、市政の発展につなげたい。

(参考様式2)

令和元年5月28日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年5月28日
出張先	福山市・倉敷市
出張内容	福山市バラ公園他 視察 岡山地方自治政策研究会 参加
応対者	福山市議会事務局 田村 渉 倉敷市議会議長 斎藤武次郎 他
概要所感	<p>福山市では、毎年80万人以上の方々が訪れる「バラ祭り」の主会場となるバラ公園他を視察し、バラの維持管理方法・管理体制・費用についてお尋ねをした。「バラ祭り」では、人口約47万人の街に2018年度は、土曜日34万人、日曜日51万人、2019年度は土曜日35万人、日曜日51万人の集客をしており、祭り開催による課題並びに経済効果についてもお尋ねをした。福山市での取り組みを参考とし、本市における観光事業取組の一助としたい。</p> <p>岡山地方自治政策研究会では、PPP(公民連携事業)に関する報告書をもとに行政が目指すべきこと、早期に実現すべきこと、なぜ、いま公民連携なのかをテーマに公民連携の必要性、再開発事業の在り方等について成功例・失敗例を検証しながらレクチャーを受けるとともに講師並びに各地方議員の方々と意見交換をした。本市の今後の官民連携の参考としたい。</p>

(参考様式2)

令和元年7月25日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年 7月24日 ~ 令和元年 7月25日
出張先	公益財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所
出張内容	令和元年度市町村議会議員研修 [2日間コース] 自治体決算の基本と実践 ～行政評価を活用した決算審査～ 参加
応対者	全国市町村国際文化研修所
概要感	秩父市の決算書・事業評価シート・決算カード・類似団体比較カード・財政状況資料等を用いて、決算について学習した。 決算書の数字を多角的に理解するとともに、財務書類4表を読み解き、類似団体との比較により財政の特徴を理解し、予算に反映させるための知識を深めることができた。行政評価シートも十分活用し決算審査・事務事業の改善・予算審議に活用していくたい。

(参考様式 2)

令和元年 7月 26 日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和 元年 7月 26 日 ~ 令和 年 月 日
出張先	山陽新聞さん太ホール
出張内容	山陽新聞創刊 140 周年記念 教育講演会 参加
応対者	山陽新聞山陽会 山陽新聞社
概要感	東北大学教授川島隆太氏を講師に、「新聞がたくましい脳を作る」と題した講演を拝聴した。読書習慣と学力の関係、スマートフォンの使用状況と学力の関係、睡眠時間と学力の関係等を説明していただきながら脳科学から見た脳の発達を含め読書習慣を持つことの重要性、並びにスマートフォンの使い過ぎによる学力低下を引き起こす危険性について見識を深めることができた。 川島先生の分析結果を参考にし、本市における学力向上、健全育成を推進していきたい。

(参考様式2)

令和元年8月21日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年 8月21日 ~ 平成 年 月 日
出張先	岡山コンベンションセンター
出張内容	自治体向けICTセミナー 参加
応対者	東京インタープレイ株式会社 石井知成 株式会社ドコモCS中国 田中雄一朗 備前市議会議員 掛谷繁
概要 感	議会活性化調査特別委員会に於いて継続課題となっている「タブレット端末の導入」に関して、2015年に紙と電子データの完全併用方式により導入をされた備前市議会の事例をお伺いするとともに、現在の他都市の導入状況並びに最新のSideBooksについてのレクチャーを受けた。 備前市議会においては、「備前市ICTの街づくり事業」により全議員にタブレット端末を貸与し、「備前市議会ICT活用プログラム実施要領」を策定されたうえで、会議・文書管理システムにSideBooksを採用し運用をされている。1名の議員さんのみ使用されていないことであるが、災害時の連絡・情報共有ツールとしての活用や、会議録の確認などにも活用されているとのことであった。 本市においてもICT機器を活用した会議の効率化、災害時等の緊急連絡ツールとしての活用を考え、早急に導入をし、議会改革・情報提供を進めていきたい。

(参考様式2)

令和元年9月1日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年9月1日
出張先	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
出張内容	NPO法人チャイルドラインおかやま2019年 第1回・第2回公開講座 参加
応対者	NPO法人チャイルドラインおかやま
概要所感	児童虐待やいじめが社会問題となり尊い子供たちの命が奪われるという事件が多発する中、岡山で子供たちの心を支える活動をされているNPO法人チャイルドラインおかやまが開催されている公開講座に参加をし、第1回は、前理事長 長西崎宏美氏より「子供の今とチャイルドラインの活動」と題した子供たちの内面や置かれている状況などの現状について講演いただいた。第2回は、山陽学園短期大学名誉教授 村中由紀子氏から「子供を取り巻く現状と育児支援について」と題して、日本の子供を取り巻く環境の変化や、母親の育児不安の原因、人間力とは何かなどについて講演をいただいた。チャイルドラインおかやまの電話の受け手となる方々の養成講座も兼ねており、多くの方々が参加されていた。子供たちを健全に育てていくためのヒントとしてとらえ活動されている方々と協力しながら、津山市において、青少年の健全育成を推進していく、子供たちが安心して豊かに育つ環境づくりに努めていきたい。

(参考様式2)

令和元年9月3日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年9月3日
出張先	山陽新聞さん太ホール
出張内容	山陽新聞創刊140周年記念連続シンポジウム 令和の時代を作る 第2回地域に根ざしたライフスタイル 参加
応対者	山陽新聞社
概要感所	<p>地方においては、少子高齢化が進みコミュニティの維持が難しくなっている。</p> <p>第1部では、雑誌「ソトコト」編集長 指出一正氏による基調講演「私たちは地方で幸せを見つける～関係人口のつくり方～」を拝聴し、様々な地方での取り組みを紹介していただきながら、地方は何を目指し、どのような視点で地域づくりを進めていくべきか理解を深めた。地方で幸せを見つける視点として、「関係案内所」・「未来を作っている手応え」・「自分事として楽しい」という3つのキーワードをいただいた。自分で考え、自分で見つけ、地域を編集していくことが関係人口の増加につながると理解をしました。成功例を実際訪ねて、より深く関係人口を理解し、本市に賑やかさを創出していきたい。</p> <p>第2部では、真庭市長 太田昇氏、山陽学園大学地域マネジメント学部教授 白井信夫氏、森林プランティア 梅谷奈々氏、NPO/NGOによるSDG'sネットワーク岡山会長 石原達也氏、山陽新聞社編集委員室長 岡山一朗氏を加え、テーマを「素晴らしいローカルライフ」として、パネルディスカッションが行われた。</p> <p>真庭市でのバイオマスによる取り組みの紹介、白井先生による</p>

概 所 要 感	<p>再生可能エネルギーと地域づくり、梅谷氏による美作市上山地区での活動など、地域資源を活用した生活の面白さや依存型社会システムからの脱却について意見が交わされた。</p> <p>本市における地域内循環のシステム作りの一助としていたい。</p>
------------------	--

(参考様式2)

令和元年9月8日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年9月8日
出張先	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
出張内容	NPO 法人チャイルドラインおかやま 2019年 第3回・第4回公開講座 参加
応対者	NPO 法人チャイルドラインおかやま
概要感	先週の第1・2回公開講座に引き続き、NPO 法人チャイルドラインおかやまが開催されている公開講座に参加をした。第3回は、備前市立香登小学校教諭 津下哲也氏より「今どきの子供のメディア事情」と題し、子供たちのメディアの利用形態、リスク、小学校における ICT 機器の活用状況等について講演いただいた。第4回は、立正大学特任教授 鹿嶋真弓氏から「学校現場の今」と題して、SNS の持つ危険性、いじめ・不登校対策、子供たちとの接し方、学校での教員の感じている問題等について講演をいただいた。今回も、チャイルドラインおかやまの電話の受け手となる方々の養成講座も兼ねており、多くの方々が参加されていた。子供たちを健全に育てていくうえで活動されている方々と情報交換しながら、津山市において、青少年の健全育成を進め、子供たちにとって最善となるような成長環境づくりに努めていきたい。

(参考様式2)

令和元年10月10日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年10月9日 ~ 令和元年10月10日
出張先	東京ビッグサイト 東京ビッグサイト青海展示場
出張内容	日経 XTECH EXPO2019 地方自治情報化推進フェア 2019 視察
応対者	日経 BP 地方公共団体情報システム機構 他
概要感	<p>10月9日の日経 XTECH EXPO2019での基調講演では、宇宙航空研究開発機構 津田雄一氏より「あのプロマネが明かす、「はやぶさ2」の“世界初”を支えたチーム作り」と題し、新たなプロジェクトの取組むためのチーム作り等について講演をいただいた。特別講演では、リコーCEO 室長 浅香孝司氏より「ボトムアップ活動の起爆剤とは 創的活動の拡大と進化を促す7つのポイント」、NIコンサルティング代表取締役 長尾一洋氏より「働き方改革を成功させるには、AI,IoTを「フィードフォワード」に使え」と題してそれぞれ講演をいただいた。</p> <p>10月10日には、地方自治情報化推進フェア 2019において、早稲田大学 電子政府・自治体研究所研究院教授 岩崎尚子氏より「地方自治体における業務プロセス・システムの標準化及びAI・ロボティクスの活用とみらい」、情報セキュリティ大学院大学教授 藤本正代氏より「情報セキュリティにおけるリスクマネジメントサイバー攻撃に立ち向かう組織づくり」と題した講演を、日経 XTECH EXPO2019では、東京都知事 小池百合子氏より「2020年のオリンピック・パラリンピック後を見据えて」と題した講演を拝聴した。</p>

概 所 要 感

各展示ブースでは、最新の技術や様々なツールを拝見しながら各ベンダーの担当者より説明をしていただいた。

今後、人口減少が進んでいく中において、業務の効率化や組織再編が求められていく中において、重要な考え方、技術などを学ぶことができた。

講演の中では、5G 環境の早期整備が自治体生き残りの鍵になるであろうと数名の方がおっしゃられていた。

短期間で、様々な問題についての見識を深めることができたと思う。本市における問題の解決、福祉の向上への一助とし、さらなる市政の発展につなげたい。

(参考様式2)

令和元年10月25日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年10月23日～令和元年10月25日
出張先	公益財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所
出張内容	令和元年度市町村議会議員研修〔3日間コース〕 「地方分権と自治体の行政改革」 参加
応対者	全国市町村国際文化研修所
概要所感	<p>初日は、まず「地方行政をめぐる最近の動向」と題して、総務省自治行政局行政課長 阿部知明氏より「第32次地方制度審査会について」、「スマート自治体研究会報告書概要等」、「地方議会・議員の在り方に関する研究会について」、「地方自治法の改正概要」、「マイナンバー制度等について」など最近の地方行政に関する講義を受けた。続けて、「地方分権時代のまちづくり」と題して、兵庫県養父市長 広瀬 栄氏より養父市の農業状況、国家戦略特区としての取り組み状況等を例に、制度の見直しすることによるまちづくりについて講義を受けた。講義終了後は、各地より参加した議員たちとの交流を深めるとともに情報交換をした。</p> <p>二日目は、まず「地方分権時代の中で地方自治体に期待される役割」と題して、内閣府地方分権改革推進室参事官 萩原秀樹氏、参事官補佐 吉野明彦氏、主査 小林和志氏より講義を受けた後11班に分かれてワークショップを各人が問題提起した事前課題について実施した。講演では、地方分権改革・提案募集方式による各行政組織の取り組みを教えていただくと共に、その手順についての説明があった。再度お会いしたうえで、より詳細な説明をいただき活用をしていきたいと思う。続けて、「地方分権の展</p>

望」と題して、一橋大学大学院法学研究科 辻 琢也教授より、「中央と地方の関係」、「地方分権の流れ」、「財政再建と行政改革」、「超高齢・人口減少社会の課題」、「社会動態対策と総人口推移」、「先進団体の戦略と対策」などについて海外の事例を含め講義を受けた。

3日目は、「地方分権における自治体議員の在り方」と題し、明治大学政治経済学部 牛山久仁彦教授より、「地方分権の成果と自治体を巡る環境変化」、「自治体議会の現状」、「議会改革の論点」、「議員の報酬と定数をめぐる状況」、「議会改革と住民参加」、「自治体議会の危機管理と広域連携」などについて講義を受けた。

今回の講義で得た知識を活用して地域課題を解決し、住みよい地域づくりを推進し、本市の発展に寄与したい。

地方分権改革・提案募集方式については、改めて萩原参事官に、制度・手順等をご教授願い、地域に会った制度となるような改善を図って行きたい。

概
所
要
感

(参考様式2)

令和元年11月1日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年10月30日～令和元年11月1日
出張先	長野県諏訪市 駅前交流テラス「すわっチャオ」 長野県松本市 長野県塩尻市 市民交流センター「えんぱーく」 長野県飯田市
出張内容	諏訪市：駅前交流テラス「すわっチャオ」 松本市：健康づくりの取り組み・松本ヘルスバレー構想について 塩尻市：市民交流センター「えんぱーく」 飯田市：地域における人材育成・飯田 OIDE 長姫高校の取り組み 持続可能な地域社会を構築していくための高い住民意識の醸成について 視察・研修
応対者	諏訪市：副議長 森山博美・議会事務局長 前沢由美子 駅前交流テラス「すわっチャオ」館長 伊藤道生 松本市：議会事務局次長 河村知佳 健康産業・企業立地担当部長小林浩之 健康づくり課長 林 優子 塩尻市：交流支援課長 山崎浩明 飯田市：議会事務局課長 湯澤啓次 議会事務協調査係長 城下一弘 飯田市公民館副館長 秦野高彦

概所 要感	<p>会派未来の行政視察に同行をさせていただいた。</p> <p>初日は、長野県諏訪市において駅前交流テラス「すわっチャオ」を訪れた。森山副議長より歓迎のご挨拶をいただいたのち、伊藤館長に施設を案内していただきながら開設に至った経緯や運営状況の説明を受けた。民間商業施設を購入し、多世代が交流できることを目的として運営されており、本年5月の開館以来9月末時点で10万5千人口来場者があったとのことであった。しかし、運営費は、約7000万円で、収入は約700万円のことである。</p> <p>2日目は、松本市では、健康づくりの取り組みについての説明をいただいた後、松本ヘルスバー構想についての説明をいただいた。「健康寿命延伸都市」を掲げられ、各自治区すべてに地域づくりセンターを設置され、その中で年齢性別を問わない実践型のプログラムを実施していく中で、健康寿命と平均寿命との差を少なくされていた。松本ヘルスバー構想では、健康で暮らせるための課題を解決することをビジネスに結び付け、民と官が連携し、ビジネスモデルを構築し「暮らせば健康になるまち」を目指して健康プログラムを開発し、住民と企業がWin-Winの関係となる取り組みを進められていた。</p> <p>塩尻市においては、市民交流センター「えんぱーく」を訪れ、施設建設の経緯並びに運営状況について説明をいただいた。塩尻駅の移転により市街地の賑わいが喪失されたことで、ワーキンググループを立ち上げ、ワークショップを繰り返し実施していく中で、基本コンセプトを「知恵の交流を通じた人づくりの場」として97枚の壁柱を使用したこの建物が建設されたことである。図書館並びに行政事務の一部も行い、来館者は、68万3千人(H.30)とのことであり、「すわっチャオ」同様多世代が楽しめる空間となっていた。しかしながら、運営費は、1億1千万円強を支出されているとのことであった。</p> <p>最終日となる3日目には、津山市と市政提携都市の関係にある飯田市を訪れ、湯澤議長より歓迎のご挨拶をいただいたのち、地域における人材育成・飯田OIDE長姫高校の取り組み・持続可能な地域社会を構築していくための高い住民意識の醸成について説明をいただいた。</p> <p>1. 集落がしっかりとていればコミュニティが強くなる。コミュニティが強くなれば飯田市が強固になる。</p>
----------	--

概
所
要
感

2. 行政は、地域に密着して住民の自治活動を支援することが重要である。
3. 地域づくりは、住民自治を土台として、行政・市民・事業者等による「協働」が原動力である。

という市政経営の考え方の下で公民館を運営されておられた。戦後より、地域の特性により各公民館単位が強く結束されているうえで、それぞれの地域が独自の地域にあった活動をされているとのことである。飯田市公民館は、各地区公民館の連絡調整と活動支援等を行い、地区公民館は、地区推薦により地区公民館長を選任し、市正規主事・地区選出委員と共に地区的課題や地区民の要求に基づく学級講座の開催や分館活動に関する相談・支援等を行い、分館は、地域住民から選出された役員が中心となって、運営をされているとのことである。公民館は、「住民自治の学校」という考え方の下で、自分たちで考え、資金を出し合いながら問題解決に取り組んでおられた。地域を愛し、理解して、地域に貢献する人材教育においては、コミュニティスクールを導入し、地域と一体となった義務教育期間、人生の転機を迎える高校時代、社会の担い手となる青年時代の中で、義務教育期間は、人生の土台作りに注力し、高校時代には松本大学とパートナーシップ協定を締結した上で、自らの人生を切り開いていく力を持つとともに、地域に心の根を置き、誇りを持つことのできる人材教育を進められていた。誇りと愛着を持って住み続けられる地域づくり・人づくりの大切さをしっかりと考える契機となつた。

今回訪ねた4市の取り組み、考え方を参考にし、多世代が交流できる場の在り方、健康で暮らすための施策、人材教育などをしつかりと考え、本市の発展に寄与していきたい。



諏訪市



松本市



塩尻市



飯田市

(参考様式2)

令和元年11月5日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年11月4日～令和元年11月5日
出張先	とっとり・おかやま新橋館 経済産業省 資源エネルギー庁 内閣府 地方分権改革推進室
出張内容	とっとり・おかやま新橋館 経済産業省 資源エネルギー庁 エネルギー施策の方向性について 内閣府 地方分権改革推進室 地方分権改革・提案募集方式について 視察研修
応対者	とっとり・おかやま新橋館：主幹 濱家由加 企業人材コーディネーター 小林由典・水野吏英子 経済産業省資源エネルギー庁：係長 蟹江 優 内閣府地方分権改革推進室：参事官補佐 目黒 浩 他
概要感	11月4日には、とっとり・おかやま新橋館を訪ね11月3日に実施された婚活イベントを活用した移住定住フェアの様子をお聞きするとともに、一階店舗で販売されている岡山県産品を見させていただいた。婚活フェアでは4組のカップルが誕生し、店舗では津山産のコメが300グラム380円で販売されていた。 11月5日には、あべ俊子衆議院議員のお世話で、資源エネルギー庁の蟹江係長よりエネルギー政策の方向性について説明をいただき、その後内閣府地方分権改革推進室の目黒参事官補佐より地方分権改革・提案募集方式について JIAM での研修を踏まえ、より詳細な説明を受けた。環境に配慮したエネルギー利用について知識を深めることができた。水素発電所が実証運転を開始したことでも知らせていただいたので、この施設を視察させていただくべく準備を進めたい。地方分権改革・提案募集方式については、担当部局に推進室との情報交換を勧め、地域課題の解決に努めたい。農業ビジネスモデルを成功させるためにも東京圏での市

概
所
要
感

場の状況を知り、商社機能の充実を考えていきたい。併せて、婚活イベントを活用した移住定住施策も推進していきたい。



とっとり・おかやま新橋館



資源エネルギー庁



内閣府地方分権改革推進室

(参考様式2)

令和元年11月11日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年11月11日
出張先	山陽新聞さん太ホール
出張内容	山陽新聞創刊140周年記念連続シンポジウム 令和の時代を作る 第3回お金と地域の新しい関係 参加
応対者	山陽新聞社
概要感	<p>第1部では、ローカルサミット事務総長 吉澤保幸氏による基調講演「ローカルから暖かいお金の流れをつくろう」を拝聴した。富山県南砺市での取り組みなどを例に、地方の在り方について理解を深めた。「健やかで美しい暮らし」・「懐かしい過去」・「住む理由を感じられる田舎が、一流の田舎」などの言葉が印象的であった。</p> <p>第2部では、中国銀行頭取 加藤貞則氏、レプタイル社長 丸尾宣史氏、Orb 社長 河井七美氏、NPO/NGO による SDG's ネットワーク岡山会長 石原達也氏、山陽新聞社編集委員室長 岡山一朗氏を加え、テーマを「お金の回し方とローカルイノベーション」として、パネルディスカッションが行われた。</p> <p>岡山での起業の優位性と難点、起業者を増やすために、お金を回すためにとるべき行動などについて意見交換がなされた。岡山県での起業に関しては、創業支援の充実・アクセスの良さ・大手と競合しないなどの優位性に対し、投資家が少ない・新たな取り組みに対して時間がかかる・出会いが少ないなどの難点が提示された。起業者を増やすためにでは、失敗を恐れないこと・背中を押す環境づくりが重要である・マルチな働き方の採用が必要などの意見が出された。</p>

概 所 要 感

お金を回すためには、異業種間で互いにつながりを作る・自分事として考える・地域愛の醸成・各機関同士（産・学・官・金・言）の連携などが挙げられた。

本市における産業の活性化並びに住み続けたいと思える地域づくりを推進していくために、今回提示された意見を我が地域に反映させていきたい。

(参考様式2)

令和元年11月23日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年11月23日
出張先	倉敷市民会館
出張内容	岡山イノベーションコンテスト2019 視察
応対者	主催：中国銀行 山陽新聞社
概要所感	<p>岡山・備後の地から次世代を担う起業家精神を持った人材を発掘、育成、表彰することで岡山県内の創業機運を高めるようとするプロジェクトである。2017年から開催され、本年は第3回目となる。過去のコンテストからは「もんげーバナナ」・「無水洗車」などが生まれている。本年は、ビジネスプラン部門高校生の部では「伝統の重要無形民俗文化財をバーチャルアイドル白石舞が躍る！」、大学・専門学生の部では「NPコネクション（無人島を利用したい人と提供したいとのマッチング）」、一般の部では「電源不要で軽量柔軟な動作支援装置アンプラグドパワードスーツ」、ビジネス部門スタートアップの部では「岡山から薬剤師改革を！光を用いた革新的調剤支援装置の開発」、イノベーションの部では「パターンストレージ（統一された縫製仕様書）」等の発表があり、本年も高校生、大学・専門学校生などの若者も参加した地域の活性化や新規事業の事例を学べる機会であった。</p> <p>現在、美作大学において前津山高専校長の則次先生が立ち上げた「介護ロボット研究会」でも取り上げられていた「電源不要で軽量柔軟な動作支援装置アンプラグドパワードスーツ」がグランプリを受賞された。</p> <p>津山市における新規事業を開発するとともに、起業家の育成に努めたい。</p>

(参考様式2)

令和元年12月24日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和元年12月23日～令和元年12月24日
出張先	長野県下伊那郡松川町 長野県飯田市
出張内容	松川町：のうふく JAS・子供の居場所づくりについて 飯田市：飯田 OIDE 長姫高校地域人教育成果発表会 視察・研修
応対者	松川町：宮下智博 町長 佐藤史人 町會議員 NPO 法人 Hug (ハグ) 理事長 篠田阿依 株式会社 ウィズファーム 代表取締役 森下博紀 飯田市：牧野光朗 市長 代田昭久 教育長
概要感	初日は、長野県伊那郡松川町にて、宮下町長を表敬訪問したのち、佐藤史人町議会議員のお世話のもと NPO 法人 Hug を訪れ、施設内で食事をいただきながら篠田理事長より活動内容・運営状況等の説明をいただいたのち施設見学をさせていただいた。この団体は、カフェ・子ども食堂・フリースペース・学習サポート・体験イベント・ワークショップなどの事業を展開している団体で、当初は、長野県の「地域発元気づくり支援金事業」による支援で運営をしていたが、持ち出す経費が結構かかるため、平成31年度よりは日本財團の補助金も活用し運営されている。他にも、地元企業の協力により施設の改修を無償で受けたうえ、施設使用料、光熱費に至るまでその企業の負担で運営をされているとのことであった。食材・物資等も地元の方々による寄付があり、地域の厚い協力の上で運営が成り立っている。この日も、子育て世代の方々が、お子さんと共に多く訪れていた。 その後、株式会社 ウィズファームを訪れた。森下代表取締役よ

概所

要感

り「のうふく JAS」認証に至る経緯、認証による付加価値の向上、販路の拡大等について説明を受けた。作業をする各個人に対して、その特性に応じた作業を割り振るとともに、危険な作業からは遠ざけるなどご苦労はあるようだが、新たな販路を開拓し就労者の収入の向上、就労意欲の醸成、耕作放棄地の減少など効果が期待できるものとなっている。帰津後、リンゴを購入した。

2日目には、飯田市を訪れ、飯田 OIDE 長姫高校の地域人教育成果発表会を観させていただいた。1年生による地域人教育活動報告、2年生による地域人教育活動報告に続き、3年生 10 チームにより地域に入り込んでの活動及びテーマ型による活動報告があった。入場時にアンケート用紙と投票用紙が配布され、全ての活動報告を観た後、投票用紙とアンケートの回収がされた。

発表の内容は、地域の方々との交流の場としてのお茶会の開催、高齢者と若者の交流のためのタピオカドリンクの無料配布、スペイスカレーを用いた地域との交流、ゆるキャラを使った子供たちとの交流、「食・交流・景色」をキーワードとした地域を知る取り組み、柏原産野菜を用いた商品開発、高校生目線の飯田市の魅力な発信、多世代が交流でき、地域の魅力を共感できる場の提供、地域食材を使った「高校生居盛屋」の開店、地域の魅力を発信するホームページの開設など多岐にわたったものであり、皆さん楽しく地域課題に取り組んでいるように感じられた。

本市において、子供の居場所づくりや、障害を持つ方々の社会参加、地元の魅力を理解した人材育成を推進し、豊かで住みよい地域づくりを進めていきたい。

(参考様式2)

令和2年1月24日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張期間	令和2年1月23日～令和2年1月24日
出張先	熊本市
出張内容	ローカルマニフェスト推進連盟研修会 in 熊本 実体験から学ぶ災害時の問題と備え 参加
応対者	北川正恭 早稲田大学名誉教授 大西一史 熊本市長 伊藤英範 熊本弁護士会災害対策委員会委員 西川裕也 早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員 他
概要感	初日は、北川正恭教授より「地方議会は災害から住民を守る備えをしているか」、伊藤英範弁護士より「弁護士が語る発災後の住民課題～住民相談から解く自治体の備え～」、西川裕也研究員より「議会 BCP 全国事例と ICT 活用」、大西一史市長より「熊本地震を振り返って～地方議会への提言～」と題してそれぞれ講演をいただいた後、「災害時の議会・議員活動」をテーマに、川上文浩可児市議会議員・黒川勝横浜市議会議員・北川正恭教授によるパネルディスカッションを拝聴した。北川教授には、平時ににおける災害への備えの重要さを再度認識させられるお話を伺い、伊藤弁護士からは、弁護士会による支援活動の様子や課題、求められる支援の在り方など説明をしていただいたうえで、災害ケースマネジメントの制度化や専門始業団体との連携など提言をいただいた。西川研究員からは、災害時の行動指針の制定状況や議会 BCP の策定状況を説明していただくとともに災害時における議会の行動指針についてアドバイスをいただき、災害時における ICT の活用事例を説明いただいた。パネルディスカッションでは、各自治体での避難訓練の状況等を踏まえた議会・議員の活動

概所

要感

について議論があった。

2日目は、熊本市健康福祉局福祉部健康福祉政策課より「罹災証明発行の問題と備え」、藤飯宥貴子熊本県民交流館パレア館長より「女性の視点から見た災害時の避難所運営の問題と次への備え～熊本地震の経験から～」、中村健早稻田大学マニフェスト研究所事務局長より「データから読み解く住民行動と住民ニーズの真実～yahoo データ解析より～」、野尻哲雄大分市議会議長より「大分市議会の災害対応～議会 BCP～」と題し講演をいただいた。熊本市の東真波職員からは、罹災証明の発行状況並びに発行体制・実務について説明いただき、課題を提起していただくとともに、体制整備の重要さを教えていただいた。藤井館長からは、避難所での問題点、留意点について、実例をもとに説明していただき、運営についてご指導いただいた。中村事務局長からは、yahoo 検索においてどのような単語が検索されているかを分析することにより、ニーズを把握した対応の重要性、インターネットに慣れていない方々への対応など指導をいただいた。野尻議長からは、大分市議会での議会 BCP の状況を説明していただく中で、災害時における議会・議員の行動の在り方を勉強させていただいた。

災害時対応について見識を深めることができたと思う。本市における災害時対応を万全なものとしておくための参考とし、安心して暮らせる街づくりを進めていきたい。

